



OJT 機能を強化するため設備を導入し 生産力強化のカギを握る技術者を育成

課題

生産力維持のために必要な 熟練者から若手への技術継承

エアコン、カーナビ、医療用機器、半導体製造装置、バルブ、コンピュータ周辺機器などに使われる各種精密金属部品の精密切削加工および組み立て、自動化省略可装置の設計製作、コンピュータソフト開発事業を展開する株式会社小林精機。年商は17億円に迫る勢いで躍進を続け、平成30年12月には、経済産業省より地域未来牽引企業に選定されるなど、まさに地域の経済成長を牽引する注目企業だ。

ステンレスを中心にコバルト合金やチタンなど、難削材といわれる難易度が高い部品の加工において独自の技術を誇り、市場のグローバルな競争が激化するなかであっても、幅広い業界からの少量・多品種のオーダーにもスピーディ、かつ確実に対応。試作品の1～2個単位の注文から月産数万個の量産まで、高品質、適正価格、短納期で対応できる高い技術力で信頼を得て、近県のみならず関東や中部地方の大手メーカーなど幅広い顧客をもつ。

近年では、自動車のハイテク化やIoT、AIなどの新しい技術に向けた半導体の需要は拡大の一途をたどっており、高い技術力をもつ同社でなければ対応し得ない受注が増大している。こうしたなか、顧客のニーズに応える生産力をもつことが、同社にとって急務の課題となっていた。とくに少量・多品種の受注への対応においては、生産品目1点ごとに工程の段取りを変えなくてはならないが、段取り替えができる技術者は限られており、作業負担が集中。同社でも生産力向上のためには若手技術者の育成を急ぐ必要を痛感しているが、人材不足もあいまって育成に手が回らないというのが現状だった。

支援

段取り替え技術者の育成で 少量・多品種品の生産力強化

相談を受けた滝沢市商工会は、補助金事業全体を効果的に統合運用する推進コーディネーターを派遣。同社の抱える問題である段取り替え技術者を増員するためには、OJT機能を強化し、熟練技術者を指導員として後継人材の指導育成にあたるのが不可欠だと判断。つまり、熟練技術者を実作業から切り離すことを提案した。

だが、現時点ですでに不足している熟練技術者を実作業か



同社の加工製品

ら離しては、目の前の受注に対応することすら難しくなる。そこで、段取り替え技術者の負担を軽減してOJTへの配置替えを行うために、7軸制御AI型協働ロボットの導入が必要だとして、ものづくり補助金を申請。さらに難削材の高精度加工に必要な高剛性マシニングセンターの導入を決定した。これらを組み合わせたロボット生産の本格稼働に向けて専門家からロボット制御技術の指導を受けている。

生産力の強化という課題の解決に向けて、同社独自の生産システムの構築、正式運用に向けて修正・改善を重ねており、さらなる業績の向上につながるものと期待される。

支援の経過

期間	支援内容
H29年5月	ものづくり補助金の申請支援
H30年4月	ものづくり補助金の申請支援

会社概要

会社名：株式会社小林精機
住所：岩手県滝沢市大釜風林3-21
電話番号：019-686-1166
URL：<http://kobayashi-seiki.co.jp>
代表者名：代表取締役社長 小林要
創業年：昭和28年（設立：昭和52年）
年間売上高：16億8578万円（平成29年）
従業員数：110名
商工会名・担当者名：滝沢市商工会・齋藤陽一